

特集 PART 2

はじめての

# 赤城山

芝居に、歌謡にもその名が上がり、日本中で広く親しまれてきた赤城山。「暖かく我々を包容してくれる」。そう『日本百名山』で称する山を訪ねる。

写真〓若林 純



カルデラ湖大沼と地藏岳(黒檜山中腹より)

## 逍遙の山、赤城山

赤城山は榛名山、妙義山と並んで群馬を代表する上毛三山のひとつであり、そのなかで唯一深田久弥の『日本百名山』に挙げられている。『赤城』を冠する峰はなく、黒檜山、駒ヶ岳、地藏岳、鈴ヶ岳、荒山、鍋割山など複数の峰の総称が赤城山。

「裾野は長し赤城山」と上毛カルタにあるように、第一の特徴は長く伸びる裾野だ。富士山に次ぐ長さを誇り、遠くから望むその山容は端正で美しい。古代から噴火を繰り返して現在の山容になったが、底径の大きさ、裾野の長さから推測すると、かつては富士山より標高の高い活火山であったともいわれる。

「赤城の山も今宵限り…」の科白

で有名な江戸時代の俠客国定忠治は、上州国定村(現在の伊勢崎市国定)に生まれ、今年(2010年)に当たる。忠治を題材に取った講談や演劇、映画は多く、東海林太郎の歌った「赤城の子守唄」とともに、赤城山の名を全国区にまで押し上げた。前橋出身の詩人萩原朔太郎も愛した上州人の故郷の山であると同時に、志賀直哉をはじめ多くの文化人たちがその四季折々に見える自然を賞讃してきた、いわば国民的な山でもある。

「登山というより逍遙という言葉のあたる、大きなプレイ・グラウンド」と『日本百名山』にある通り、冬を除けば険しさはない。誰もが何度でも歩いて眺望を楽しめる。それが赤城山だ。

### 赤城山データ

赤城山は黒檜山、地藏岳、駒ヶ岳、長七郎山、鈴ヶ岳、荒山、鍋割山など複数峰の山塊の総称。  
【標高】1827.6m(＝黒檜山)  
【位置】北緯36度33分37秒  
東経139度11分35秒  
【所在地】群馬県中央部  
【底径】35km(南北)×22km(東西)  
【分布面積】約700km<sup>2</sup>

【山体体積】約100km<sup>3</sup>  
【種類】カルデラ及びカルデラ湖(大沼、小沼)を持つ複成火山  
【交通】鉄道・バス＝JR前橋駅からバス、富士見温泉行きに乗り、終点で赤城山ビジターセンター行きに乗り換えて終点下車。車＝関越自動車道前橋ICから国道17号経由で県道4号を北上。

早朝の赤城山全容(桐生市荒神山展望台より)



「赤城自然園はこれから秋を迎えるところ。10月に入ってもうしばらくすると、光が弱くなり空気も澄んでくる。すこしずつ紅葉が見られるようになるでしょう。森は冬支度を始めています」と園長の片場富夫さんは、森の草木に目を配りながら季節の移ろいを説いてくれた。

9月下旬から10月中旬にかけては、夏の気配は去っているものの、深まる秋を彩る紅葉にはもう少し、という時季だという。夏の日差しを受けて、昆虫や草花が賑やかにあった森も一段落。厳しい冬の到来を前に、しばし森が森自身に返って静かなひとときを過ごす頃なのだ。

「人もぎつと同じでしょう。暑い



季節を乗り切って、気持ちのうえでもすこし落ち着く。ひととき、静かな秋の赤城自然園でゆっくり歩きながらリフレッシュをしていただければと思います。まだまだ緑も楽しめます。ここでは、週ごとに見頃を迎える草花が入れ替わる。日々変化する赤城自然園を熟知した片場さんだからこそ、静かな森の尊さや楽しさも知り、それを来園者に体感してもらえることが一層よろこばしいのだという。

パークという、落葉樹皮だけを敷かれた遊歩道を進む。足への負担が少ない。しかもやがて土に帰り、森の養土となる。細かな配慮が足元ひとつにも見て取れる。

赤城自然園は赤城山の西麓、標高600〜700mにあり、約

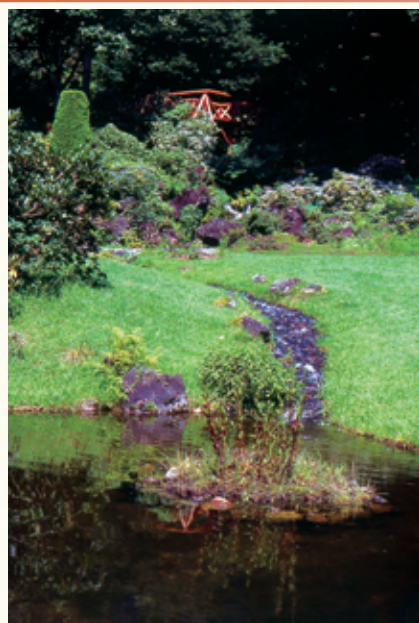
120畝の敷地を誇る。山頂部の大沼がちょうど収まるほどの広さだ。現在一般公開されているのは約60畝。「セゾンガーデン」「四季の森」「自然生態園」の3エリアに分かれている。

園内を歩くだけなら1時間半〜2時間ほどだが、そうはいかない。園内で確認された動物は昆虫類1810種、鳥類77種、哺乳類15種、また植物は木本類152種、草本類510種で、北関東に生息する植物のほとんどある。28年の歳月をかけて丁寧に整備した賜物だ。3時間程度の余裕をもって巡りたい。

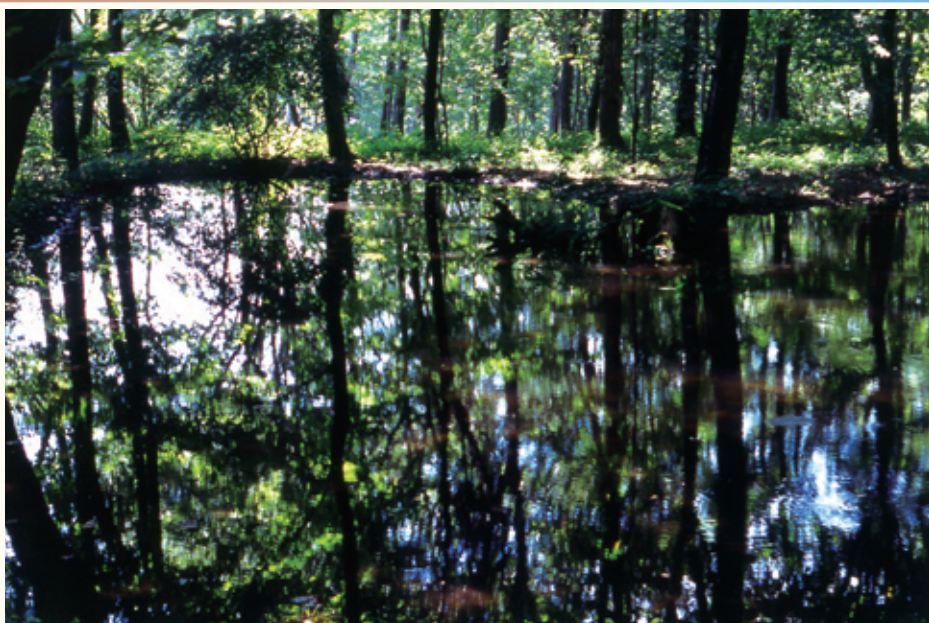
静かな秋の一日、ふと立ち止まり、見て、触れて、何かを問いかけてみる。大人はもちろん、子どもたちにこそ自然とのふれあいを体験してもらい、健やかな成長の糧にして欲しい。片場さんはそう願っている。

## 秋に向かう赤城自然園を歩く

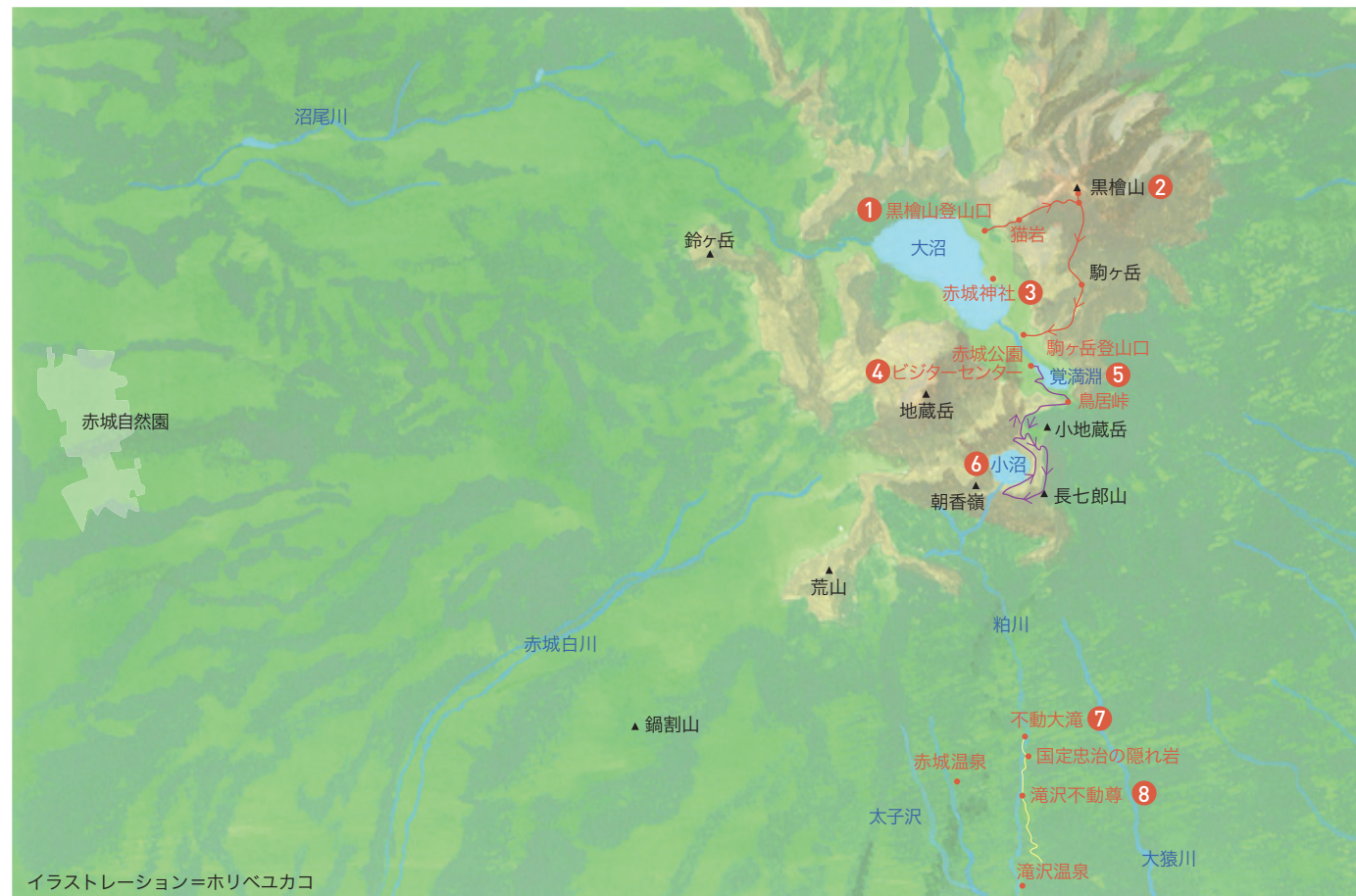
静かに冬支度をはじめている森の中を草木と対話するようにゆっくりと楽しむ



人工ながら、水辺を覆う護岸はすべて植物。



ミズスマシの池はひっそりとありつつも、生物も多様な「赤城自然園」の象徴



イラストレーション=ホリベユカコ

## 「赤城山」の基本コース

文 山崎元郎

### 「黒檜山」コース

大沼を背に登山道に入ると、いきなりの急登である。黒檜山頂上までは登りつばなしだ。ここは、歩幅を小さくゆつくり登って行くこと。足裏全体がべたつと着地するように足を運ぶ。約30分で猫岩に出る。振り返れば大沼方面の展望が開けて、気持ちにゆとりが生まれる。樹林帯の中の急登が続く。傾斜が緩くなると、その先で主尾根上の分岐に立つ。登山口から分岐まで1時間30分、右に行けば駒ヶ岳、黒檜山は左に5分だ。展望台からは、谷川岳や奥日光連山、空気が澄んでいると富士山も見える。Uターンして大タルミまで下ったら、緩やかな坂道をひと登りで駒ヶ岳、黒檜山から1時間。さらに南に下り、コースを西に向かうと、約1時間で車道に出る。黒檜山登山終了だ。

### 「寛満淵・長七郎山」コース

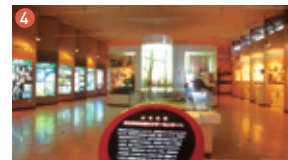
山歩きに慣れていない人にも無理のない散歩道。黒檜山を登山とすれば、こちらはハイキングだ。赤城公園ビジターセンター前から寛満淵に入り、遊歩道を鳥居峠に向かう。25分程度で峠に。「小沼・長七郎山登山口」の道標がある。関東ふれあいの道になっている。階段を上がり、幅広い歩きやすい道を30分で小沼平分岐。ちょっと開けて展望が効く。左へ緩やかに登れば尾根上に出る。崩壊地を抜け、ゆつくり登っても40分で長七郎山頂上に到着する。地藏岳が間近に。足下の小沼は水面を神秘的に輝かす。15分ほどで沼尻に下る。沼辺を半周したら、車道に出ず右に進んで小沼平分岐まで40分。往路を戻り、40分でビジターセンターに帰着。鳥居峠からは車道を辿ってもいい。



分岐から駒ヶ岳へ向かうピークにある御黒檜大神の石祠と赤鳥居。



登山口の標高はすでに1,360m。岩だらけの急坂がしばらく続く。



赤城山関連の資料を展示。自然観察会なども開かれる地域の拠点。



朱塗りの神橋を渡ると大沼小鳥ヶ島に鎮座する赤城神社元宮へ。



湖畔に1周30〜40分のハイキングコース整備。オトギの森も近い。



駒ヶ岳と小地藏岳に囲まれる湿原で「小尾瀬」とも。植物の宝庫。



1406年創建。赤銅製の不動明王は上杉謙信の守本尊と伝えられる。



小沼から流れ出る粕川の滝。落差は約50mで、冬期は氷瀑となる。





## 秋の行楽

## 日帰りバスツアーのご紹介

片場園長と歩く

## 紅葉の美しい赤城自然園と 榛名湖・榛名富士頂上からの紅葉展望

### ツアーのポイント

- ◆色づく木々の葉に目を留めながら片場園長が赤城自然園をご案内
- ◆もみじや木の葉、木の実を観察して見分け方を知る楽しみ
- ◆榛名湖畔から紅葉を觀賞しながらロープウェイで榛名富士展望台へ

### 旅程表

各地発(7:15～9:00発)＝＜関越道＞＝榛名湖(湖畔からの紅葉觀賞)…榛名富士山麓駅＜ロープウェイ＞榛名富士山頂駅・展望デッキからの展望＜ロープウェイ＞榛名富士山麓駅＝赤城自然園(園長のご案内で紅葉觀賞)＝＜関越道＞＝各地着(18:30～20:30予定)

◆出発日 **11月1日(月)・6日(土)** 横浜(7:15発)＝新宿(8:15発)  
**11月7日(日)・12日(金)** 新宿(8:00発)＝川越(9:00発)

◆コース番号 **02895-689**(11月1・6日)  
**02896-689**(11月7・12日)

◆1名様旅行代金 **8,800円**

◆添乗員 同行 ◆最少催行人数 18名 ◆昼食 弁当付き

お申し込み・お問い合わせ **クラブツーリズム(株)** (9:15～17:30 日祝休)  
**03-5323-5590** ※コース番号で検索のうえお申し込みください。

旅行企画・実施/クラブツーリズム(株) 〒160-8308 東京都新宿区西新宿6-3-1 新宿アイランドウイング  
観光庁長官登録旅行業第1693号 管理番号 03462

\*詳しい旅行内容に関する書面をお送りします。事前にご確認のうえお申し込みください。



紅葉の見頃：10月下旬～11月上旬(写真：11月撮影)  
撮影：\*天候などの影響により例年と前後する場合があります。



## 赤城山麓に広がる赤城自然園の紅葉と 可憐に咲く冬桜の競演 ～みかん狩り・お土産付き～

### ツアーのポイント

- ◆紅葉が見頃となる約60ヘクタールの赤城自然園を散策
- ◆群馬県唯一の観光みかん園で食べ放題のみかん狩り
- ◆紅葉の中に約7,000本の冬桜が可憐な花を咲かせる桜山公園へ



紅葉の見頃…10月下旬～11月上旬(写真：11月撮影)  
\*天候などの影響により例年と前後する場合があります。

### 旅程表

池袋発(7:30)＝＜関越道＞＝赤城IC＝赤城自然園(園内を散策、紅葉觀賞)＝富士見温泉・見晴らしの湯(昼食/入浴)＝赤城IC＝＜関越道＞＝藤岡IC＝群馬県唯一の観光みかん園/冬桜観光みかん組合(園内食べ放題/みかん1袋お土産付き)＝桜山公園/冬桜の觀賞＝本庄児玉IC＝＜関越道＞＝池袋着(18:30～19:00予定)

桜山公園 冬桜の見頃…11月上旬(写真：11月撮影)



◆出発日 **11月6日(土)** 池袋7:30発  
◆1名様旅行代金 **8,800円**  
◆添乗員 同行 ◆バスガイド 同行  
◆最少催行人数 30名 ◆昼食 和食御膳

お申し込み・お問い合わせ **(株)パティ ジャパン**  
**03-5721-1745** (9:30～18:00 土・日・祝休)

旅行企画・実施/(株)パティ ジャパン 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-20-1  
観光庁長官登録旅行業第1282号

\*詳しい旅行内容に関する書面をお送りします。事前にご確認のうえお申し込みください。

### セゾンガーデン



来園者を最初に出迎えてくれるのが「セゾンガーデン」。季節ごとに多様な花々や植物が楽しめる。地形を巧みに利用したイングリッシュガーデンだ。アカヤシオ・シロヤシオを中心としたツツジの丘から、約1200種類が植えられたシャクナゲ園、シャクナゲの谷へと続いている。地下水を利用している小川のせせらぎが聞こえ、清々しい。随所に配されベンチに腰掛け、目線を変えて緑の造形を眺めるのも趣き深い。ロックガーデンもある。登りきったところにある見晴台からは、ガーデン全体が見渡せ、同時にその先に榛名山の麗姿が現れる。まるで絵画を眺めているようだ。

### 四季の森



しばふ広場を越えたところが「四季の森」。こどもたちにはうってつけの場所だ。森の遊び場の樹上小屋や木製の遊具を見つけ、こどもたちが駆け寄っていく。クルミやドングリ拾いも楽しそう。テーブル付ベンチは園内で間伐した材木で作られている。親たちはそこから、遊びの様子を眺めている。先にはアカマツ広場があり、すらりとしたアカマツの美しさに立ち止まって枝振りを見上げる。遊歩道わきの季節の花を写真愛好家が熱心に撮影している。炭焼き小屋があり、開いていけば見学もできるという。これから炭焼きシーズン、機会があればぜひ再訪したい。

### 自然生態園



ナフシ橋を渡ると「自然生態園」。大きなビオトープの森だ。ここには多くの昆虫が棲み、夏場はカブトムシやクワガタとも出会えるそう。きつと少年たちで賑わったのだらう。暑気が払われ秋へ移る頃、チョウの季節となる。木道を歩いて野草のはらっぱ、カタクリの林を抜けると昆虫館が見えてくる。続いてトンボ池、さらに進むと園を象徴するミズスマシの池が優美に現れた。木々と空の映り込む水面をアメンボが揺らして行く。初夏にはヘイケボタルが飛び交うという。幻想的な光景だらう。カブトムシの森、チョウのはらっぱを抜け、ナナシ橋へ。夕方、帰路についた。

### 赤城自然園

開園期間・時間/4月～11月 9:00～16:30 \*入園は15:30まで

開園日/金・土・日・月・祝日

入園料/大人1,000円 小人300円(小学生～高校生)

UCカードのご提示で、大人入園料が500円になります。(会員ご本人様のみ)

\*その他各種割引もございます。詳しくはホームページをご確認ください。  
\*入園料は赤城自然園の環境保護に利用させていただきます。

〒379-1113 群馬県渋川市赤城町南赤城山892 ☎0279-56-5211(開園時のみ)

赤城自然園ホームページ akagishizenen.jp

### ACCESS

#### ■車をご利用の場合

- ・関越自動車道 練馬IC⇒赤城IC(111km/約80分)⇒赤城ICより約10分

#### ■電車をご利用の場合

- ・上野⇒渋川(特急/約100分)、渋川よりタクシーで約20分
  - ・東京⇒高崎(上越新幹線/約55分)、高崎⇒渋川(上越線/約25分)渋川よりタクシーで約20分
- \*バスの運行はございません。

